

## なが とろ 長戸呂の画家は“北の海の酔っぱらい”?

長戸呂出身の画家に「北海酔道人」という人がいます。もちろん、北海酔道人が本名ではありません。北海酔道人とは、この画家が作品を作るときに使う別名(雅号)のことです。江戸時代後期の画家として活躍しました。

1781(天明元)年、長戸呂の野村家に生まれました。本名は瀧ひらといひます。また、長江という字(別名)と、北海酔道人、芳洲北荷園という雅号(号ともいう)を持っています。

幼いときから画才を発揮していて、芳明という新潟の画家に見いだされ、その教えを受けました。のちに、江戸へ出て、谷文たにぶんちゆう兒などに学び、画家として大成をしました。

さらに画の道を究めるために、家督を弟に譲って、出家して僧となりました。そして、奥羽、佐渡と各地を遍歴し、画道に精進しました。58歳のころには、ある寺の住職となるべきところを、その

寺に行かないで、結局、佐渡の住人となつて10年以上も過ごした、という話も伝わっています。

70歳のころ、生まれ故郷の長戸呂に帰りました。そこでも、その画風を慕つて多くの人々が集まったそうです。1858(安政5)年、77歳で亡くなりましたが、区内には、山水や花鳥を描いた優れた作品が多く残っています。

彼は、放浪や酒を好み、乞われるままに描いたり、読経したりした自分の人生を「北海酔道人」という名で表現したのでしょうか。



### MEMO

たに ぶんちゆう  
谷文晁 (1763~1840)

江戸の文人画家。西洋画の技法などをとり入れ、独特の画風を生み出し、文人画の発展に貢献しました。

まさ やま めいほく  
円山溟北 (1818~1892)

佐渡出身の漢学者

の の り ぞ ん  
野村孤村 (1857~1923)

北海酔道人のおい。燕市分水の富取芳齋に入門し、家業のかたわら画家として活躍しました。

酔道人之碑 (長戸呂 長安寺)  
甥の野村孤村などによつて、1881(明治14)年に建てられました。石碑の文は、佐渡の円山溟北が作り、佐渡産の石が使われました。

